

【地区内残留地区】

地区の不燃化が進んでおり、万が一火災が発生しても、地区内に大規模な延焼火災のおそれがなく、広域的な避難を要しない区域として、地区内残留地区が定められている。

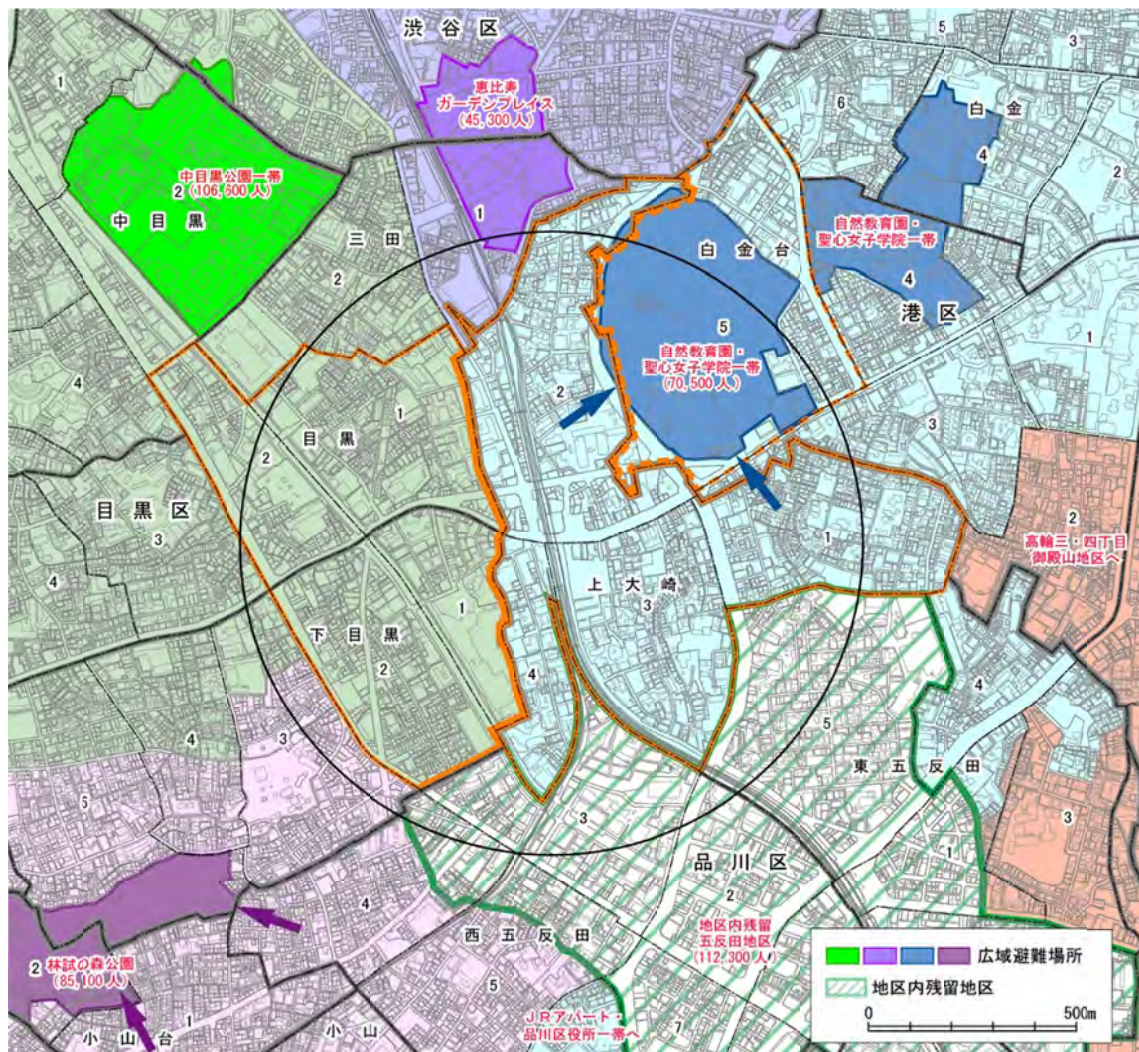
品川区の地区内残留地区は、5地区が指定されている。目黒区には指定されていない地区はない。

目黒駅周辺では、五反田地区が定められている。

図表 64 目黒駅周辺の地区内残留地区⁵¹

地区名	区名	所在地	面積	地区内退避人口
五反田地区	品川区	大崎1, 5丁目、4丁目の一部、西五反田1～2丁目、7～8丁目、3～6丁目の各一部、東五反田2, 5丁目、1丁目の一部	131ha	112,386人

図表 65 広域避難場所、地区内残留地区¹



2. 現況および課題の把握

- ・上大崎地区は、自然教育園・聖心女子学院一帯が広域避難場所として指定されているが、入口は目黒通りに面する1ヶ所しかないので、避難者が集中する恐れがある。
- ・上大崎2丁目北側のエリアでは、自然教育園側は首都高速のトンネルで行き来ができないため、実際には恵比寿ガーデンプレイスへの避難が予想される。
- ・対象地域外南側の五反田地区は地区内残留地区に指定されているが、目黒駅に近いエリアでは、目黒駅を利用する従業者や居住者が存在すると考えられる。また、来訪者で広域避難場所や地区内残留地区の指定状況を知らない人々などに対する適切な誘導が必要である。

e. 公園、広場等

【防災機能を有する公園、広場】

品川区では、震災時における地域の防災活動拠点として、平常時には防災訓練の場、区民の憩いの場、子どもの遊び場となる38ヶ所（平成28年4月1日現在）の防災活動広場の整備を行ってきた。

これら防災活動広場に加え、公園等にも可能な限り防災設備を設けている。

目黒駅周辺地域には、目黒区に立地するものも含め、貯水槽をもつ公園が2ヶ所立地している。防災活動広場は1ヶ所立地している。

図表 66 目黒駅周辺地域の公園、広場（40t以上の貯水槽を設置）^{52,53}

広場名	所在地	面積	貯水槽	施設整備
希望ヶ丘公園	上大崎3丁目10-25	635.41㎡	40m ³	固定系無線屋外スピーカー
下二児童遊園	下目黒2丁目6-1	320㎡	40m ³	
本三くじら広場	西五反田4丁目4-7	182.34㎡	40m ³	

【その他公園】

特に防災機能は整備されていないものの、発災直後に避難が可能と考えられる公園は、以下のとおりである。

図表 67 その他公園⁵⁴

公園名	所在地	面積	備考
上大崎公園	上大崎1丁目3-13	377㎡	JR目黒駅の北東にある遊戯型の小公園。
上大崎児童遊園	上大崎3丁目3-15	241㎡	園内は私道をはさんで東西に分かれている。
亀の甲緑地	上大崎4丁目5-37	157㎡	目黒駅から東急目黒線沿いに続く急坂の最下部、目黒川沿いにある小さな緑地。民間企業の開発に伴って区に提供された。
池田山公園	東五反田5丁目4-35	7,022㎡	高台部は遊戯・休憩ゾーン、低地部は回遊ゾーンとなっている。
ねむの木の庭	東五反田5丁目19-5	580㎡	皇后陛下のご実家、旧正田邸の跡地に整備した公園。
谷山公園	西五反田3丁目6-15	1,300㎡	民間企業の開発に伴って区に提供された公園と一体的に整備されている。
目黒東児童遊園	目黒1丁目9-15	621㎡	臨時集積所
目黒川田道街かど公園	目黒1丁目24-11	149㎡	街かど公園、臨時集積所
田道広場公園	目黒1丁目25-8	3,304㎡	広場公園、応急仮設住宅
目黒区民センター公園	目黒2丁目4-36	10,000㎡	地域公園
下二南街かど公園	下目黒2丁目14-15	451㎡	街かど公園、臨時集積所
大鳥公園	下目黒2丁目20-19	829㎡	児童公園、貯水槽5m ³ 、臨時集積所

2. 現況および課題の把握

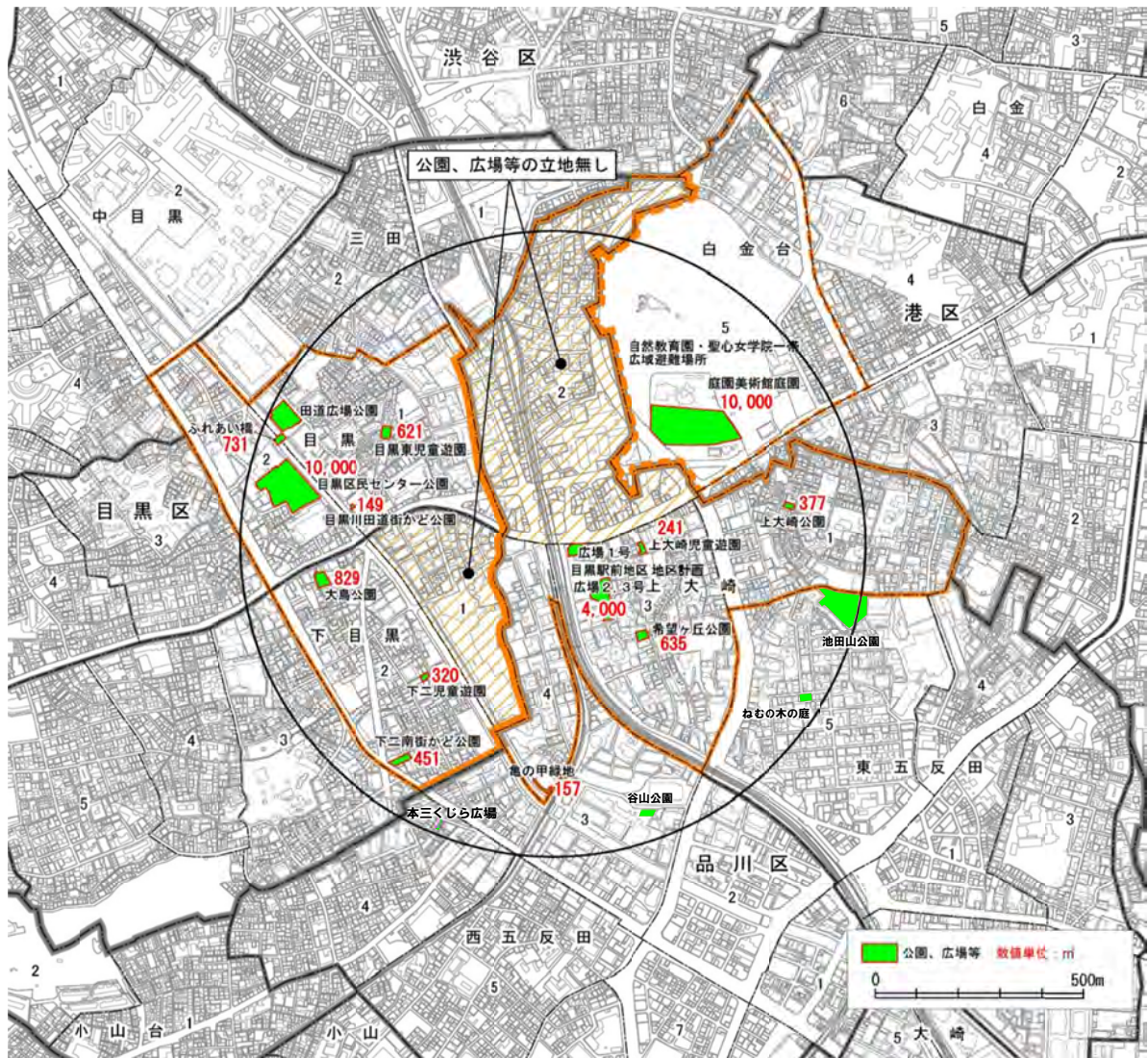
【その他広場】

発災直後に滞留者の滞留が可能と考えられる駅前広場やデッキ等の広場空間は、以下のとおりである。

図表 68 その他広場⁵⁵

広場名	所在地	面積	備考
目黒駅東口駅前広場	上大崎 2 丁目	約500㎡	分離帯や植栽などを除いた面積を図測。
目黒駅前地区地区計画 広場 1 ～ 3 号	上大崎 2 丁目及び 3 丁目地内	約4,000㎡	目黒駅前地区第一種市街地再開発事業。 平成29年竣工予定。施設建築物内には備 蓄倉庫や非常用発電機等を整備。
ふれあい橋	目黒 1 - 2 5 先 ～目黒 2 - 4 先	731㎡	ふれあい広場

図表 69 公園、広場等^{1, 56}



- ・ 上大崎2丁目と下目黒1丁目には公園が1ヶ所も立地していないため、一次退避場所への適切な誘導が必要である。
- ・ 現在再開発事業が進行中の目黒駅前地区では広場や緑地の整備が行われており、今後も開発に合わせた整備を適切に行っていくことが必要である。

2. 現況および課題の把握

f. 避難所等

【避難所】

家屋の倒壊や焼失等により生活が困難となった場合に一時的に避難生活を送る場所である。

品川区地域防災計画では、想定避難所生活者数119,932人に対し、区全体の避難所の収容人員を120,000人と計画している⁵⁷。

目黒区地域防災計画では、想定避難所生活者数約61,000人に対し、収容人員は46,000人であるため、避難所指定施設の拡充が課題とされている⁵⁸。また、目黒区では、住所による避難所の指定は行われておらず、被害状況に応じてどの避難所を利用しても構わないことになっている⁵⁹。対象地域の田道小学校および下目黒小学校は目黒川沿いに立地しているため、水害が予想される場合には使用できないこととなっている⁶⁰。

なお、避難所は原則区民の利用を想定しており、滞在者や帰宅困難者の利用は想定されていない。

図表 70 目黒駅周辺の避難所⁶¹

避難所名	所在地	構造	収容人員	主な補完避難所
第三日野小学校	上大崎1丁目19 - 19	鉄筋	1,854人	日野学園
田道小学校	目黒1丁目15 - 28	—	—	田道小学校内 学童保育クラブ
下目黒小学校	目黒2丁目7 - 9	—	—	

【医療施設】

災害時における医療救護活動の拠点となる医療機関を災害拠点病院という。品川区内および目黒区内の災害拠点病院は、以下のとおりである。

図表 71 災害拠点病院（平成24年4月1日現在）⁶²

位置づけ	施設名	所在地	病床数
災害拠点病院	昭和大学病院	旗の台1丁目5-8	853床
災害拠点病院	N T T 東日本関東病院	東五反田5丁目9-22	665床
災害拠点病院	東京医療センター	目黒区東が丘2-5-1	730床

その他、目黒駅周辺地域に立地する医療機関で、東京都防災マップに記載されているものは、以下のとおりである。

図表 72 目黒駅周辺地域のその他医療機関⁶³

位置づけ	施設名	所在地	病床数
—	厚生中央病院	目黒区三田1丁目11-7	320床
—	東京共済病院	目黒区中目黒2丁目3-8	370床
—	東京大学医科学研究所 附属病院	港区白金台4丁目6-1	135床

品川区では、各地域センター管轄区域内の避難所（区立小中学校）のうち、1ヶ所を医療救護所として指定しており、目黒駅周辺地域の周辺では、第一日野小学校が指定されている。

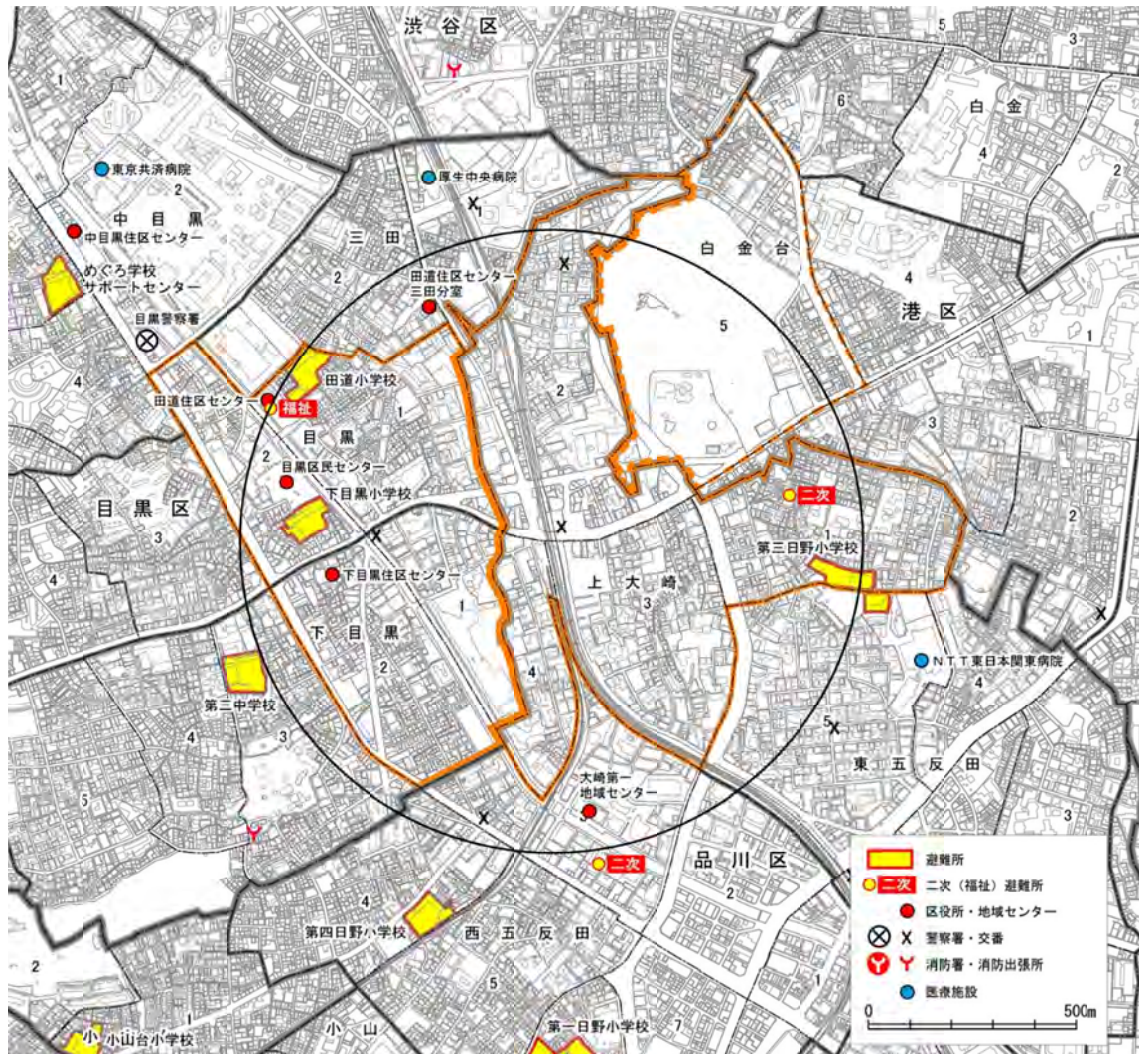
目黒区では、発災直後から災害拠点病院等の敷地内や近隣地に設置、運営するものとしており、目黒駅周辺地域の周辺では厚生中央病院、東京共済病院が指定されている。

図表 73 医療救護所一覧^{64, 65}

管轄区域	施設名	所在地
大崎第1地区	第一日野小学校	品川区西五反田6丁目5-32
目黒区	厚生中央病院	目黒区三田1丁目11-7
	東京共済病院	目黒区中目黒2丁目3-8

2. 現況および課題の把握

図表 74 避難所、医療施設等¹



【津波避難施設】

津波避難施設とは、気象庁から東京湾内湾に「津波警報」「大津波警報」が発表された場合、その警報が解除されるまでの間、地域住民等が一時もしくは緊急避難する建物のことである。

目黒川は護岸整備により水面から地上までの高さが4m以上あることから、浸水被害は限定的であると予想されているが、一部浸水被害が想定される地域には避難先を適切に誘導する必要がある⁶⁶。

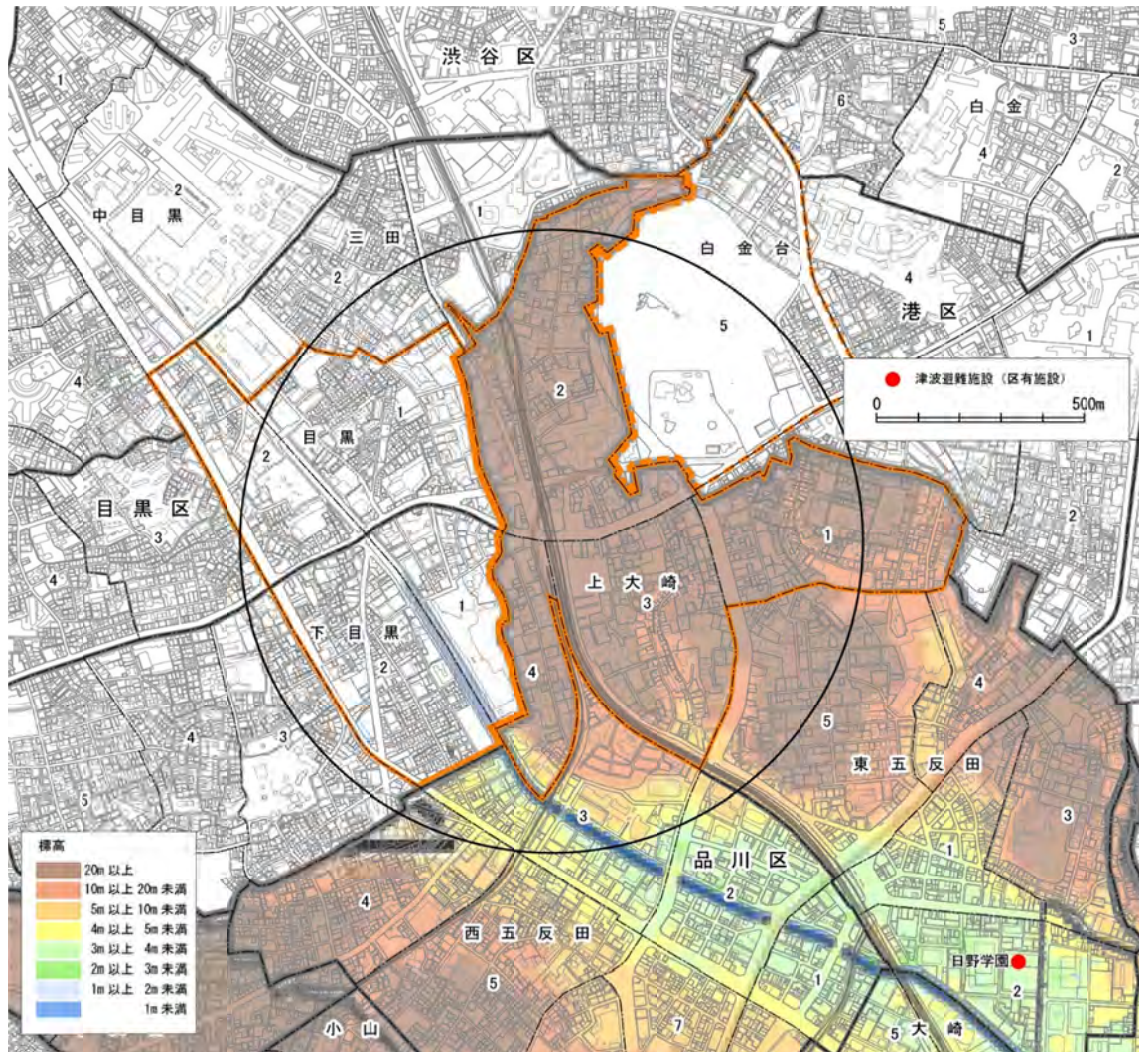
なお、目黒駅周辺地域においては、海から距離があるため、津波避難施設の立地は少ない。

図表 75 津波避難施設（区有施設）一覧（平成27年3月現在）⁶⁷

施設名	所在地	条件
日野学園	東五反田2丁目11-1	

2. 現況および課題の把握

図表 76 目黒エリア津波避難施設^{1,68}



- ・目黒駅周辺地域は標高が高いため、津波の被害を直接受ける可能性は少ないと考えられるが、津波が発生した場合、海側から避難してくる人々の流入が考えられる。
- ・また、大雨時等には、目黒川の水害に注意が必要である。